

青木彰記念講座

変貌する メディアと社会

開設区分	自由科目（特設）
開設学期	春 AB、秋 AB
コーディネーター	亀谷 賢・塚本 幹夫 野上 元

◆ITF・筑波大学からジャーナリズムとメディアの現在と未来を考える

- 主にジャーナリズムやメディア業界で活躍中の OB / OG が講師陣として週替わりで登壇
- 多彩な業界・業務に就く講師から学ぶことにより、最新のジャーナリズム・メディア業界の動向やメディア・リテラシーを幅広く多面的に学ぶ
- 多くの講師陣は先輩でもあり、大学生生活とキャリア形成を結びつけるための参考になる

◆青木彰記念講座の開設経緯

かつて筑波大学に「青木塾」という集いの場があった。1978年、産経新聞取締役編集局長～夕刊フジ社長を歴任した青木彰氏が、筑波大学現代語・現代文化学系教授として着任。その前歴を知ったマスコミ志望の学生たちが、就職相談に押しかけたのが始まりで、青木氏は週に一度、彼らを自宅に招き、時事問題を論じたり、作文の講評をするなどして就職試験に備えると同時に、後半は「酒盛り」を通じ、記者時代のエピソードや自身が体験した戦後史のさまざまな事件の裏話などを語り、社会に巣立つ直前の学生たちに相互啓発の場を作っていた。いつからか学生たちは、その集いを「青木塾」と呼んだ。青木塾は1990年に青木氏が定年退官するまでの12年間続き、延べ200名を超える学生を輩出し、マスコミを中心に現在さまざまな分野で活躍している。

卒業生たちは、30年近くを経た現在も、自主的な自己研磨の場として、業種、業界を越えて交流を続けている。

◆開設目的・趣旨

「青木彰記念講座 変貌するメディアと社会 I, II」は、ジャーナリスト、広くメディアのご意見番、教育者であった青木氏の志を受け継ぎ、青木塾出身者を中心とした筑波大学OB/OG他、本講義の趣旨に賛同する現役社会人が週替わりで登壇し、激しく移り変わる社会環境の中で、ジャーナリズムやメディアがおかれている現状について、それぞれの分野での最新のトピックを取り上げながら、理解を深めていく。同時に、近年急速に多様化し変貌するメディア環境の中さまざまな「情報」を的確に取捨選択し、判断し、活用していく能力、また自ら発信していく能力を高める。つまり「メディア・リテラシーを磨く」ことを主眼とする。

◆授業の概要

●春学期

Iでは、広く“メディア”と称される機能とツールに関して多面性を理解し、その上で、特に“ジャーナリズム”の役割に関して理解を深める。

また、めまぐるしく変貌していく社会の中で、改めて重要となってくるメディアの課題を検証していく。

●秋学期

IIでは、現代社会の中で必須の能力と言われる“メディアリテラシー”を磨くことに主眼を置き、“伝える能力”や“発信する能力”を高める。

また、従来のマスメディアとWEBメディアやSNSなどのメディアが相互にその利点を活用し、成果を上げている事例を考察し、次世代のメディアの在り方を展望する。

	講義日時	講義タイトル	所属	担当者	出身学類/研究科
1	4/17	イントロダクション～講義の紹介	magnet-inc 代表取締役	亀谷 賢	国際関係学類
2	4/24	メディア＝ジャーナリズムの場として	日本経済新聞社 専務執行役員 論説委員長	原田 亮介	比較文化学類
3	5/8	新聞の視点1（特派員という仕事）	朝日新聞社 社会部デスク(次長)	石田 博士	社会学類
4	5/15	メディア報道を検証する	毎日新聞社 総合デジタル取材 センター副部長	日下部 聡	国際関係学類
5	5/22	テレビニュースの特徴1（報道情報番組の視点）	日本放送協会 人事局	松村 勝康	国際関係学類
6	5/29	放送の仕事 番組制作と編成	関西テレビ 総務局長	大澤 徹也	体育専門学群
7	6/5	雑誌ジャーナリズムの力	演劇記者	近藤 主税	比較文化学類
8	6/12	気象を伝える	気象キャスター	井田 寛子	自然学類
9	6/19	スポーツを伝える	スポーツジャーナリスト	生島 淳	早稲田大学 社会科学部
10	6/26	科学ジャーナリズムの視点	科学ジャーナリスト	東嶋 和子	比較文化学類
11	7/3	期末試験			

筑波大学名誉教授 故 青木彰氏について



1926年東京生まれ。1949年東京大学文学部教育学科卒業後、産経新聞東京本社に入社。社会部を中心に活躍し、社会部長時代の1963年には〈小暴力追放キャンペーン〉で産経初の新聞協会賞を受賞する。以後、論説委員、編集局長、取締役、フジ新聞社代表取締役を歴任して、1978年退社。筑波大学現代語・現代文化学系教授となり、以後現場体験を踏まえた研究活動に入る。1990年筑波大学を定年退官後、朝日新聞紙面評議会委員、日本放送協会経営委員、東京情報大学経営情報学部長、司馬遼太郎記念財団常務理事、東京新聞客員などを務め、広く「マスコミ界の重鎮」として活躍する。2003年没。

作家 故 司馬遼太郎氏が、著書「街道をゆく・三浦半島記」の中で、青木氏の人的魅力について「お互いに若いころ、同じ新聞社にいた。この人が社会部デスクのころ、事件がおけると、事件そのものをこの人の大きな体と神経で浸しこむように覆い、音楽のようにさまざまな音色を出させるという、余人の真似がたい指揮をした。」と述べている。

秋学期 メディアリテラシーを磨く

	講義日時	講義タイトル	所属	担当者	出身学類/研究科
1	10/2	イントロダクション～講義の紹介	ワイズ・メディア 取締役／ フラー常勤監査役	塚本 幹夫	社会学類
2	10/9	企画で伝える	博報堂 コピーライター／ ディレクター	平山 康弘	比較文化学類
3	10/16	プレゼンで伝える	野村総合研究所 未来創発センター 上席コンサルタント	松田 真一	国際関係学類
4	10/23	(メディアを支える)広告会社の基本機能	電通 スポーツビジネスマネジ メント室スポーツビジネスプロ デュース部シニア・ディレクター	杉村 行助	体育専門学群
5	10/30	地方からの発信	福島テレビ 東京支社長	手塚 健	芸術専門学群
6	11/13	メディアをつくる	アイランド株式会社 代表取締役	栗飯原理咲	社会学類
7	11/20	クロスメディア・紙媒体とデジタルメディア	日経ウーマン元編集長	麓 幸子	人文学類
8	12/4	法制度からみたテレビ	フジテレビジョン 経営企画局メディア企画室長	山根 法久	比較文化学類
9	12/11	逆視のメディア論 ～読者・視聴者と生活者～	博報堂生活総合研究所 所長	石寺 修三	人間学類
10	12/18	コンテンツに係る諸権利	フジテレビジョン 総合事業局コンテンツ事業セン ター戦略担当局長	加藤 浩輔	人間学類
11	12/25	期末試験			

本学では、この科目のほかに、メディアやジャーナリズムに関する科目を次のように開設しています。
ジャーナリズムに興味のある方は、是非、受講してみてください。

比較文化学類	情報文化概論、メディア・コミュニケーション論、コミュニケーション論、広告文化論
社会学類	メディアと情報化の社会学
知識情報・図書館学類	メディア社会学
体育専門学群	スポーツジャーナリズム

* 授業概要等詳細は、開設授業科目一覧をご覧ください。